

ミヤマガラスの都市型ねぐら

山本貴仁・小川次郎・丹下一彦・秋山 勉

日本野鳥の会愛媛県支部調査研究部. 〒791-8017松山市西長戸町353-5

はじめに

ミヤマガラス *Corvus frugilegus* は、ヨーロッパから東アジアにかけて広く分布し、日本には冬鳥として渡来する。かつては、九州地方を中心に越冬していたが、近年は北陸や東北地方でも本種の越冬が記録されるようになってきた(山本ほか 2000, 嶋田・ボーマン 2001, 真木・大西 2000)。愛媛県では1984年に東予市で初めて越冬が確認され(丹下 1987)、以後、毎年渡来している。ミヤマガラスの越冬中の行動や生態に関する報告は少なく、今回、愛媛県松山市の市街地においてミヤマガラスのねぐらが観察されたので報告する。

経緯

2001/2002年の冬期に、松山市中心部の繁華街である二番町を中心とした地域で、カラス類による糞害が発生した。路上や車輦の上に、早朝や夕方だけでなく、夜間にもおびただしい量の糞が落とされ、大きな問題となった。しかし、この時点ではどの種によって糞害が引き起こされているのか、また、どのような行動によるものか明らかにされないまま春になり、被害もみられなくなった。この問題に対応するため、松山市は日本野鳥の会愛媛県支部に糞害の解明を含めたカラス類の生態調査を委託し、2002年秋から2003年夏にかけて調査が行なわれた。

調査方法

調査は愛媛県松山市の中心部である大街道商店街周辺で行なった。大街道商店街は、愛媛県で最も大規模な商店街の1つであり、周辺には多くの飲食店やデパートがあり、歩行者用道路の上にはアーケードが設置されている。アーケードは高さ約10mの半透明の亚克力製で夜間も照明が消えることはなく、周囲に比べて明るい。2001年/2002年の冬期に糞害が発生した地域を中心に、2002年11月24日から25日にかけての日没後、真夜中、夜明け前の計3回、徒歩で探索した。また、引き続き2002年12月11日、12月19日、2003年1月15日、2月1日、2月22日、2月24日、3月29日、7月31日にも同様の地域で観察を行なった。調査には8倍程度の双眼鏡をもちい、カラスの種名と個体数、地図上にねぐらの位置を記録した。

2005年1月17日 受理

キーワード: 都市型ねぐら, 松山市, ミヤマガラス

結果

2002年11月24日から25日の夜間、調査区域で観察されたのは、ミヤマガラス、ハシボソガラス、コクマルガラスの3種であった。総個体数は300羽以上であり、その9割がミヤマガラスであった。ミヤマガラスは、アーケード上の電線に密集し、そのほとんどが嘴を羽に隠し眠っていたが(図1)、時折目覚めることもあり、数十mから数百mの範囲で電線から電線へ移動する行動が観察された。近辺には街路樹もあるが、そこをねぐらとする個体は確認されなかった。同時に確認されたコクマルガラスは、ミヤマガラスの群れの中に3羽だけ混じっており、ハシボソガラスはミヤマガラスの群の端で観察され、群れの中に混じることにはなかった。

その後、夜間の個体数は増加し、12月11日には946羽が記録された。しかし、個体数の増加に伴い糞害が深刻となったため、12月12日から商店街関係者による追い出しが行われた。追い出しはミヤマガラスがねぐら入りをした18:00から18:30にかけて、アーケード上部にある通路の鉄製手すりを棒で叩きながら歩いて追い払うというものであった。追い出しが行われた後の12月19日には、アーケード上の電線で154羽が確認されたものの、ほかの約750羽はアーケードから離れ、周囲の電線やビルの屋上、看板で数十羽から数羽の群れに分散してねぐらをとる様子が観察された。この追い出しは9回行なわれ、12月23日以降、アーケード上の電線でねぐらをとる個体はいなくなった。追い出され分散していたミヤマガラスは、1月15日には再び約500羽の群れとなり、アーケードから約400m離れた交差点の電線をねぐらとした。2月24日にはそこからさらに500mほど離れた交差点を中心に344羽が確認されたが、3月29日の調査では市街地においてミヤマガラスは全く確認されず、7月31日にも確認されなかった。調査期間中、市街地をねぐらとしたカラス類の個体数は変化したが、ミヤマガラスの割合は終始9割程度であった。

市街地で夜を過ごしたミヤマガラスは、完全に夜が明けるまで電線に滞在した後、郊外へ向かって飛び去った。一方、同所で夜間を過ごしたハシボソガラスは、夜明け前に路上に降り、ゴミをあさる行動が見られた。12月10日および11日の早朝にねぐらから移動するミヤマガラスの群れを追跡した結果、ねぐらから10km離れた伊予郡松前町や伊予市郊外の水田地帯へ移動していることが明らかになった。

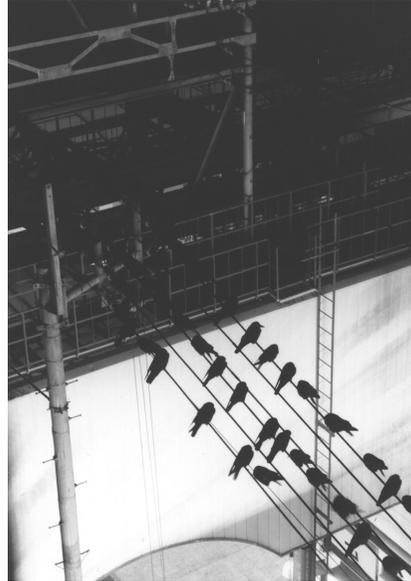


図1. 電線上で就寝するミヤマガラス

Fig. 1. Rooks sleeping on the electric wires of an arcade.

考 察

これまで、愛媛県においてミヤマガラスのねぐらを観察した例では、ハシブトガラスやハシボソガラスとねぐらを同じくし、ミヤマガラスのみでねぐらをとることはなかった。また、ねぐらは平野部に隣接した低山の雑木林や植林地であった(山本 1997)。

松山市では市街地でのねぐらが観察される以前は、今回ねぐらとなった大街道商店街から約1km離れた松山城山をハシボソガラス、ハシブトガラスとともにねぐらとして利用していたことが確認されている。松山城山は周囲を市街地に囲まれているが、シイやアラカシ、アベマキなどの高木が生育する環境である。2001/2002年の冬期から、ミヤマガラスの群れは何らかの理由で松山城山を出て、市街地をねぐらとするようになったと推測されるが、その原因は不明である。2002/2003年の冬期には、ハシブトガラス、ハシボソガラスも松山城山から出て、約7km離れた雑木林をねぐらとしたため、この時期には松山城山の環境に変化があった可能性はあるが、3月に両種は再び松山城山へ戻っている。

調査期間中、ミヤマガラスは追い出しにより、アーケード上の電線からは離れたものの、市街地からいなくなることはなかった。追い出し直後は数十羽から数羽に分散したものの再び集合してねぐらをとるようになった。再度集合した場所は、交差点付近の電線であり、街灯により周囲に比べ明るい場所であった。ただ、追い出しの後では観察された個体数が減少した。これは、追い出しにより調査範囲よりさらに外側に分散したため観察されなかったか、別のねぐらに合流した可能性もある。

早朝の追跡から、市街地をねぐらとしたミヤマガラスは夜明けとともに郊外の水田地帯へ移動していた。ねぐらの下に落とされた糞にはモミ殻が多く含まれており、日中は水田地帯で採餌していることを裏付けている。松山市では越冬中、郊外の水田地帯を餌場、市街地をねぐらとし、それぞれを行き来しながら過ごしている様子が明らかになった。

市街地のねぐらは、追い出しを除けば眠りを妨げるような要因は特になく、安全なねぐらであるといえる。ただ、日中の水田での採餌行動を観察する限り人に対する警戒心は高く、人の往来がある市街地をねぐらにするにはミヤマガラス自身に何らかの変化があったと考えられる。また、ほかのガラスのねぐらに合流することなくねぐらが形成された点や、照明がある場所をねぐらとすることについても、同様の変化が伺える。ミヤマガラスが越冬地を拡大させている背景には、こうした生態の変化が関係している可能性もあり、今後も越冬地でのミヤマガラスの生態に注意していきたい。

謝 辞

松山市役所の方々には、調査に際し様々な配慮をいただくと共に、調査結果の公表について快諾いただいた。また、日本野鳥の会愛媛県支部の方々には調査に協力いただいた。記して厚くお礼申し上げます。

引用文献

- 真木広造・大西敏一. 2000. 日本の野鳥590. 平凡社, 東京.
- 嶋田哲郎・アロン ボーマン. 2001. 宮城県北部伊豆沼・内沼周辺におけるミヤマガラスの越冬状況. *Strix* 19: 197-199.
- 丹下一彦. 1987. ミヤマガラス, 愛媛で越冬. 日本野鳥の会愛媛県支部報 12: 161-163.
- 山本貴仁. 1997. 越冬地におけるミヤマガラスの生態(予報). 愛媛県総合科学博物館研究報告 2: 25-28.
- 山本浩伸・桑原和之・竹田伸一・平田豊治・中川富男. 2000. 河北潟の鳥類相. 我孫子市鳥の博物館調査研究報告 8: 1-23.

A city Rook roost

Takahito Yamamoto, Jiro Ogawa, Kazuhiko Tange & Tsutomu Akiyama

Wild Bird Society of Japan Ehime branch. 353-5 Nishi nagatocho, Matsuyama, Ehime 791-8017 Japan

A roost of Rooks *Corvus frugilegus* was observed from November 2002 to February 2003 in the city area of Matsuyama city, Ehime Pref. The Rooks gathered in the city area, crowded on the electric wires of an arcade, and stayed throughout the night there. A maximum of 900+ birds was observed in November 2002, together with a small number of Carrion Crows and Daurian Jackdaws. In the past, a Rook roost has been observed in woods in the suburbs, but this is the first time that a roost in the city area has been observed.

Key words: city type roost, *Corvus frugilegus*, Matsuyama City, Rook